東北電力取締役社長　　2008年11月7日

高橋　宏明 殿

原発問題住民運動宮城県連絡センター
代　表　　庄司　捷彦
事務局長　　佐藤　知行
原発の危険から住民の生命と財産を守る会
代　表　　庄司　捷彦
事務局長　　高野　　博

プルサーマル計画の中止・撤回を求める申し入れ書

貴社は2008年11月5日、女川原子力発電所3号機において、プルサーマルを導入すると宮城県や石巻市、女川町に事前協議の申し入れを行ないました。

貴社はこれまで「2010年までに女川原子力発電者でプルサーマルを計画しています」との宣伝パンフを出しながらも、「正式に決まっておらず、具体的計画はない」（4月25日河北新報）としてきました。

承知のように、私たちは、プルサーマルに対するこうした「貴社の対応の真偽を正す」と共に「プルサーマルのもつ問題点について指摘」し、「計画中止」（4月と6月）を申し入れもおこなってきましたが、貴社の関係自治体に対するプルサーマル導入への事前協議申し入れ行為に関連して質問を含め、次のことを申し入れるものです。

① 「正式に決まっていない」とした事態から女川原発3号機でプルサーマルを実施することにした検討内容を明らかにしてください。

② いま原子力発電所の最大の課題は、新潟県中越沖地震による東京電力柏崎刈羽原発の被災の全容解明と耐震安全性の抜本的見直し、再発防止対策の確立ではありませんか。

③ プルサーマルの問題は原子炉の安全性が損なわれる危険性が懸念されるだけでなく、苛酷事故に至った場合の放射線被害の深刻さは計り知れないものと思われます。

④ 特に宮城県沖地震が近い将来予想される中で、女川原発3号機でのプルサーマルの実施は危険極まりなく、いっそう住民は不安をつのらせています。

⑤ また、3号機において燃料集合体560体のうちMOX燃料集合体を最大228体装荷するとしていますが、世界でこのような実例はあるでしょうか。まさに異常な計画ではありませんか。なぜそこまでするのですか。宮城県民、地元住民をモルモットにするのですか。

⑥ 原子炉の中に長く置かれたMOX燃料は、防護が難しいガンマ線や中性子線の放出が多くなるといわれています。そのため作業者の被ばくが増えることが心配されています。

⑦ それでも安全と主張するなら、実規模でのこのような大量のMOX燃料を装荷した場合の各種の実証データーを示し、説明責任を果たすべきではありませんか。

住民が納得する説明を求めます。

プルサーマル問題は、これまでの原子力発電所の設置運転の延長線上で捉えては後世に取り返しのならない禍根を残す問題を抱えていることを真摯に受けとめて危険を増大させるプルサーマル計画についての「白紙撤回」を要請いたします。

以上